

写真 佐佐木信綱文学碑除幕式

写真 佐佐木信綱文学碑除幕式であいさつをする三枝昂之館長

津田青楓 夏目漱石との交流

津田青楓 書 夏目漱石「草枕」の一節 額装

飯田蛇笏 第一句集『山廬集』

飯田蛇笏「露すゝし鎌に鎌にかけたる葛のつる」軸装

秋山秋紅蓼の書画

秋山秋紅蓼 自画賛「富士はほのぼのあけはなれゆく山の青い葡萄」軸装

秋山秋紅蓼 自画賛「秋空のあのやまもこの山もふるさと」軸装

秋山秋紅蓼 池原魚眠洞宛葉書 1949（昭和24）年月7日

小林富司夫 飯田蛇笏・飯田龍太との交流

小林富司夫「蛇笏百景」ノート 寄託資料

小林富司夫「山廬周遊」原稿 寄託資料

小林富司夫「飯田蛇笏」原稿 寄託資料

小林富司夫「飯田龍太」原稿 寄託資料

飯田龍太「小林富司夫を悼む」切り抜き「山梨日日新聞」1996（平成8）年3月26日

飯田龍太の手紙

飯田龍太 田中文人宛葉書 1960（昭和35）年6月10日

飯田龍太 田中文人宛葉書 1961（昭和36）年4月29日

飯田龍太 田中文人宛葉書 1961（昭和36）年10月11日消印

やまなし文学賞 小説部門 挿絵原画

浅川徹 画 松井十四季 著「同調とバランス」挿絵原画 第1・8・10・11・14・19回

古屋良昭 画 三井多和 著「逕をゆく」挿絵原画 第1・8・13・16・18・21回

上條暁隆 画 一条瑛里 著「春泥」挿絵原画 第2・7・11・14・21・26回

中村修二 画 入江和生 著「冬の動物園」挿絵原画 第1・3・40・43・51・57回

武田泰淳と長篇小説「富士」

写真 鳴沢村の富士桜高原にある山荘にて 1971（昭和46）年 撮影 近藤信行

武田泰淳「富士」第9回 原稿

埴谷雄高「富士」推薦文 原稿

武田泰淳「冬の日なたぼっこ」額装

武田泰淳「鬼姫の散歩」原稿

武田泰淳「上海の螢」原稿

辻邦生 故郷探訪

辻邦生 野沢昌康宛書簡 1990（平成2）年7月13日

辻邦生 野沢昌康宛葉書 1990（平成2）年8月15日

木々高太郎 ヨーロッパへの留学

林巖君訪欧送別会芳名帖

八木義徳 作品を語る手紙

- 八木義徳 結城信一宛葉書 1951（昭和26）年3月15日消印
八木義徳 結城信一宛葉書 1953（昭和28）年11月21日消印
八木義徳 結城信一宛葉書 1979（昭和54）年8月4日消印

中山堅恵 戦争を描く

- 中山堅恵 「ビルマ戦線」草稿
中山堅恵旧蔵 執筆の資料として使われたビルマの地図
中山堅恵 著書の表紙絵
須藤猷 画 『戦火は消えず』原画（1990年5月 文芸誌群）
水野浩 画 『水無川に潰える』原画（1988年5月 文芸誌群）
『ビルマ戦線』原画（1991年3月 文芸誌群）
『屍衛兵』表紙切抜（1989年7月 文芸誌群）
中山堅恵 「小説 甲府空襲」草稿
中山堅恵旧蔵 執筆の資料として使われた「甲府市全図」
志村ユミ 画 「細切れの軍旗」表紙原画

- 山崎方代 甥・上田照秋との交流
山崎方代 「ゆえ知らぬ涙は下る朝の陽が茶碗の中のめしを照らせり」色紙
山崎方代 「寿の威儀 そこだけが雪がちらちら舞つてゐる南天の実は赤かりにけり」色紙
山崎方代 上田照秋宛葉書 1978（昭和54）年9月12日消印
山崎方代 上田照秋宛葉書 1980（昭和55）年9月24日消印
山崎方代 上田照秋宛葉書 1981（昭和56）年11月2日消印
山崎方代 「寿」色紙

- 里見淳 「多情即仏心」扇面額装

田中冬二と俳句

- 田中冬二 「春燈下踊り子靴をはき替ふる」軸装

- 高室呉龍 「中印の空に飛雲の柿をほす」短冊 寄託資料
石原舟月 「塔青し白夜の鐘がなかぞらに」色紙 寄託資料
松村蒼石 「訪なふて雨の十勝の夏炉哉」短冊 寄託資料
中川宋淵 「さとりに求めて山に来し」色紙 寄託資料
辻 露村 「山に来て何を踏みても春隣り」色紙 寄託資料
窪田玲女 「竹煮草長けて近道真昼なり」色紙 寄託資料
瀧 春一 「仏法僧一山の月に鳴きはづむ」色紙 寄託資料
河野友人 「放埒の貌にまぶしみ菊の燭」短冊 寄託資料
井上たま子 「雪解風淡き会釈のあはきまま」短冊 寄託資料
廣瀬直人 「草山の草つたひくる春の風」短冊 寄託資料
三枝昂之 新年同詠語 応制歌 「語ることは繋ぎゆくこと満蒙といふ蜃気楼阿智村にきく」

開館 30 周年記念
新収蔵品展
手書きのリズム

与謝野晶子・芥川龍之介・飯田蛇笏・中村星湖・津田青楓・武田春海ほか

観覧無料

2019年
1月26日(土)~3月24日(日)
 休館日/月曜日(2月11日は開館)、2月12日

山梨県立文学館
 Yamanashi Prefectural Museum of Literature

- 与謝野晶子「法政学会で行く如し甲斐の御酒亭整備のからむる蔵」複製 複製資料 高尾醸造店蔵
 当子は、1931(昭和6)年秋(7月)、甲斐富士天町にある高尾醸造店を襲う。
- 芥川龍之介「浅草公園」複製
 「文藝春秋」昭和(昭和12)年7月号掲載。藤田静子、河野清があら、1940(昭和15)年7月号で複製された作品。
- 飯田蛇笏「富士山」富士山記念館蔵複製
 1939(昭和14)年刊、第一句集「山嵐集」複製。
- 中村星湖「貞節八景 一」横 中村三蓮子氏寄贈
 1905(明治38)年3月、東京文芸協会に、和歌の句集を寄贈の書状に添えられた、その中の複製の写。
- 津田青楓 著 飯田蛇笏「翠苑」の一冊 複製
 複製は1911(明治44)年徳小倉書店に購入。東京の「翠苑」の発行本との複製を準備する。
- 武田春海「富士」複製複製
 「海」雑誌編集室(1977年6月)複製、複製資料、富士山麓にある精神文化の人々を詠った小説。



(4) 教育普及事業

1. 事業の基本的な考え方

展示解説、普及活動等を行う教育普及事業は、調査・収集・整理・保存・展示・研究などの諸活動とともに、文学館活動の中で重要な位置を占める。県民のニーズに対応し、社会教育・学校教育との連携を図るなかで、文学専門の博物館としての特殊性を生かし、年間を通しての文学講座の開催、講演会の開催、文学的に価値ある映画の上映、朗読公演会など、県民や来館者の生涯にわたる学習がより一層進展するように学習支援を行っていく。

また、山梨ゆかりの作家や作品の資料を活用した学習プログラムや子ども向け事業の充実を図ることは、郷土への関心を高め、郷土を愛し、郷土に誇りを持てるような心情を育むという点からも重要であると考え。子どもから大人までの幅広い県民の文学活動の中心となり、文化の発信拠点を目指す。

2. 教育普及活動の内容

(1) 特設展・企画展関連教育普及事業

企画展「歿後30年 草野心平展 ケルルン クックの詩人、富士をうたう。」、春の特設展「生誕120年 井伏鱒二展 旅好き 釣り好き 温泉好き」、夏の特設展「童話の花束 子どもたちへの贈り物」に関連して、作家・研究者・関係者による講演会や関連講座を行う。特設展・企画展のテーマを詳しく解説し、展示では扱えなかった視点から考察を加えるとともに特設展・企画展そのものへの理解を深められるように実施した。外部講師及び職員による講演会・講座などを通して文学を学ぶ機会を提供した。

- ①外部講師及び職員による講演会・文学講座事業を実施。
- ②関連映画鑑賞会を実施。
- ③関連ワークショップを実施。
- ④ギャラリートーク（展示解説）を実施。
- ⑤チャレンジクイズを作成。

楽しみながら展示の内容が学べる小中学生対象のクイズを作成。「チャレンジクイズ」を通して、文学や作家について学ぶ機会を提供。

(2) 年間文学講座

年間文学講座は平成2年度から実施している。県民の興味・関心に応じて幅広く学べるよう配慮し、テーマ設定に当たっては講師の専門性を生かすことを心がける。平成30年度は、1名の外部講師による「古典文学講座（全8回）」と4名の講師によるリレー形式の講座である「近代文学講座（全8回）」の2講座と、当館の学芸員が講師を務める「山梨の文学講座（全3回）」を実施した。

講座1のテーマは「『裏見寒話』を読む - 甲府勤番士の捉えた「やまなし」の人・文化・ことば」、講座2のテーマは「日本文学と富士山～近代を中心に」、講座3は、当館の展示作家を中心に、山梨出身・ゆかりの人物と文学についての講座を実施した。

(3) 名作映画鑑賞会

文学作品を映画化した名作の数々を上映し、文学と映画の関わりについて考え、作品をより深く理解してもらうための企画である。平成2年から毎年実施し、企画展・特設展開催期間中には関連映画鑑賞会を実施、また、夏休みには子ども向け映画上映も計画している。平成30年度は一般向け映画4回、子ども向け映画を1回、全5回実施した。

(4) 朗読公演会

作品（詩・小説など）の魅力が朗読公演によって鑑賞する一般向けの企画を1回実施する。これは、開館の年から毎年開催、幅広い年齢の聴衆から大変好評を博している。平成30年度は、華のん企画による「耳で聴く芥川龍之介～名作「鼻」「歯車」の世界～」を9月に実施した。

(5) 文学創作教室

俳句をはじめ短歌や詩、エッセイなどの創作を通じて、文化活動を推進する。小・中・高校生をはじめ広く県民を対象に、文学創作講座を実施する。今年度は、小説家の神永学氏の講演「私をつくったもの」（一般および高校生対象）と三枝昂之館長と三枝浩樹氏による短歌教室（計5回）を開催した。

(6) 山梨の文学解説講座（出前講座）

この講座は、学芸課の職員が、要請された市町村等に関連のある県出身・ゆかりの文学者と作品を紹介する講座である。当館の研修室・講堂等あるいは市町村施設等において、説明・講義した。

(7) 教師のための学習会

県内の小・中・高校・特別支援学校の教職員を対象に夏の特設展と秋の企画展に関わって、文学館職員による説明と観覧を通して、国語教育への活用を図った。

(8) 児童生徒向け事業について

将来の山梨を担うことになる子どもたちに、山梨ゆかりの文学と文学者について学びきっかけを作る。学校教育との連携をより緊密にして、文学を通して豊かな心を育てていく。

① 文学教室

年間を通じ、随時開催する。小学校、中学校、高等学校の要請に応じ、当館が展示する内容について、当館の研修室・講堂等、あるいは各小中学校、高等学校において、説明・講義する。

② 子ども名作映画

当館講堂において、夏休み（2回）の期間中に良質の映画の上映を行う。

③ 子どもワークショップ

主に子どもを対象とした参加型・体験型の教室を開催し、文学を身近に感じ、文学や文学者に興味を持ってもらう機会とする。今年度は、特設展関連事業として「羊毛フェルトで山椒魚を作ろう!」、また、夏休みのワークショップとして、「デコパージュで「童話の花束」を身近に」「あなたの心を鏡開き!太神楽の世界を体験しよう」を開催した。1月には、「新春小学生百人一首教室」を実施した。また、新しい試みとして、大人を対象とした「大人のための初心者俳句ワークショップ」と、親子を対象とした「子どもとその保護者のための「俳句入門」」を開催した。

④ 学習ガイド（ジュニアガイドブックと教育普及用資料集）

県出身又はゆかりの文学者、作品について、小中高生の理解を深めるために、文学者、作品についての教育普及資料集を作成している。平成27年は宮沢賢治の、29年度は樋口一葉の教育普及資料を改訂するなど、随時見直しを行っている。

また、常設展示室に展示されている山梨県出身およびゆかりの文学者について、わかりやすく解説したジュニアガイドブックを活用し、子どもたちが文学への興味や関心を持てるようにしている。

⑤ チャレンジ文学館

常設展を見に来た子どもたちが、ポイントをつかんで楽しく観覧できるように、常設展クイズ「わたしはだあれ?」を実施し活用を図っている。また、芸術の森公園内に、俳句や詩、短歌や童謡、小説やエッセイの一節を書いた24本の柱を立て、「文学の柱追跡散歩」としてクイズを実施する。さらに、夏休みスタンプラリーの活用により、夏休み期間中は「夏休みチャレンジ文学館」として子どもたちへの浸透を図った。

⑥ チャレンジクイズ

楽しみながら企画展や特設展の内容が学べる小中学生対象のクイズを作成。「チャレンジクイズ」を通して、文学や作家について学ぶ機会を提供する。

⑦（ジュニア）インターンシップ（就業体験）

子どもたちの職業観・勤労観を、より早い段階から育成するとともに、将来、自らの進路を自分自身で選択できる能力を育てていくことが課題となっている。文学館としても、中・高校・大学生の職場見学や（ジュニア）インターンシップを積極的に受け入れ、若年者の職業意識形成支援に積極的に取り組む。平成30年度は大学・中・高校生および特別支援学校高等部の学生および生徒を受け入れた。

⑧ 学習資料・アウトリーチセットの貸与

館作成資料の一部を学習のために貸与する。要請により、学校をはじめ、生涯学習事業等に対して貸与を行う。平成30年度は、「石川啄木セット」を県内小中高校4校に、「飯田蛇笏・龍太のちまちな人形セット」を1校に、「村岡花子と『赤毛のアン』の世界セット」を1校に、「宮沢賢治～イートハーブの世界・嘉内（かない）との友情物語セット」を6校に、「芥川龍之介の夏休みセット」を4校に、さらに「特設展『作家のデビュー展』関連セット」を15校に貸し出した。

(9) やまなし文学賞について

平成4年4月、山梨県にゆかりの深い樋口一葉の生誕120年を記念して制定された。山梨県の文学振興をはかり、日本文化発展の一助として、小説、研究・評論の2部門が設けられている。平成30年度は小説部門313編、研究・評論部門121編の応募があった。

平成30年度 教育普及事業の実施状況

分類	内容 講師等	開催日	会場	参加人数
文学講座 1	『裏見寒話』を読むー甲府勤番士の捉えた「やまなし」の人・文化・ことば 講師:長谷川千秋(山梨大学教授)	6月から月1回土曜日 14:00~90分間	講堂	全8回 777人 平均 97人
文学講座 2	「日本文学と富士山~近代を中心に」 4名の講師によるリレー式講座	5月から月1回木曜日 14:00~90分間	講堂	全8回 589人 平均 74人
文学講座 3	「山梨の文学」 井伏鱒二と山梨 講師:中野和子(学芸員) 童話創作の背景 ー 芥川龍之介・村岡花子・徳永寿美子 ー 講師:保坂雅子(学芸課長) 句会の記録をよむ ー子規・虚子・碧梧桐の資料から ー 講師:高室有子(学芸幹)	14:00~70分間 5/12(土) 7/22(日) 12/9(日)	研修室	全3回 180人 平均 60人
参加者合計				1546人
企画展関連事業	講演会「牧歌への回帰」 講師:島田雅彦(小説家) 講演会「草野心平、詩の理想を求めて」 講師:蜂飼耳(詩人・作家) 講演会「宮沢賢治、高村光太郎、そして草野心平」 ーコスモス、世界共通意識と孤絶意識にかかわってー 講師:阿毛久芳(都留文科大学名誉教授) 講座「草野心平と富士山ー展示のみどころー」 講師 伊藤夏穂(当館学芸員)	10/21(日) 10/28(日) 11/10(土) 10/17(水)	講堂 研修室 研修室 研修室	117人 46人 71人 40人
参加者合計				274人
特設展関連事業 「作家のデビュー展」	講演会 「井伏鱒二の笑いとしみ」 講師:町田康(作家)	6/10(日)	講堂	303人
参加者合計				303人
文学創作教室	一般文学創作教室 「神永学講演会 私をつくったもの」 講師:神永学(作家) 高校生文学創作教室 「神永学講演会 私をつくったもの」 講師:神永学(作家) 「初心者短歌教室」 全3回 講師:三枝浩樹 「三枝昂之短歌講座」 全1回 講師:当館館長 「三枝浩樹短歌講座」 全1回 講師:三枝浩樹	7/14(土) 7/14(土) 5/13(日) 5/19(土) 6/24(日) 9/8(土) 12/15(土)	講堂 講堂 研修室 研修室 研修室 研修室 研修室	100人 50人 18人 18人 17人 38人 42人
参加者合計				283人
名作映画鑑賞会	黒い雨 潮騒 アニメ「赤毛のアン」 愛と死を見つめて 幕末太陽傳	5/20(日) 6/3(日) 8/5(日) 10/6(土) 11/17(土)	講堂 講堂 講堂 講堂 講堂	255人 235人 206人 207人 134人
参加者合計				1037人

ワークショップ	大人のための初心者俳句ワークショップ	4/29(日)	研修室	38人
	羊毛フェルトで山椒魚を作ろう!	6/2(土)	研修室	26人
	子どもとその保護者のための「俳句入門」	7/7(土)	研修室	10人
	夏休み自由研究プロジェクト	7/16(月・祝)	アイメッセ	185人
	デコパージュで『童話の花束』を身近に	7/29(日)	研修室	22人
	あなたの心を鏡開き! 太神楽の世界を体験しよう	7/31(火)	研修室	35人
	新春小学生百人一首教室	1/12(土)	研修室	37人
	参加者合計			353人
チャレンジクイズ	チャレンジ文学館「わたしはだあれ?」			2881人
	文学の柱			507人
	企画展チャレンジクイズ			687人
	特設展チャレンジクイズ			1874人
参加者合計			5949人	
協力会読書会	井伏鱒二「山椒魚」	5/13(日)		5人
	太宰治「もの思う葦」	6/10(日)		6人
	芥川龍之介「蜘蛛の糸・杜子春」	7/8(日)		8人
	吉村昭「遠い日の戦争」	8/12(日)		4人
	松井十四季「同調とバランス」	9/9(日)		6人
	志賀直哉「小僧の神様 外」	10/14(日)		7人
	瀬戸内寂聴「手鞠」	11/11(日)		7人
	林真理子「花探し」	12/9(日)		5人
	川端康成「掌の小説」	1/13(日)		6人
	山本周五郎「月の松山 外」	2/10(日)		7人
	芥川受賞作2作(第159回&160回)	3/10(日)		5人
参加者合計			66人	
ジュニアインターンシップ (就業体験受け入れ)	大学1校 高校2校 中学3校			11人
	特別支援学校高等部1校			2人
	学芸員実習 都留文科大学			2人
参加者合計			15人	
山梨の文学解説講座 (講師派遣) (一般・学校)	小学校 5回			小中高特 1536人 一般 182人 全15回 1718人
	中学校 3回			
	高等学校 2回			
	一般 5回			
参加者合計				
文学教室	展示解説			小中高特 1948人 一般 1071人 全52回 3019人
	小学校 5校			
	中学校 18校			
	高等学校 14校			
	一般 15回			
参加者合計				
その他	移動文学館パネル展示			32校 14338人
	やまなし文学賞(小説 313 研究・評論 121)			434人
	やまなし文学賞表彰式	3/10(日)		50人
	朗読講演会「耳で聴く芥川龍之介～名作「鼻」「歯車」の世界」	9/24(月・祝)		215人
	外部共催研修			48人
	教師のための学習会	2回		12人
	各種団体への広報活動	2回		382人
参加者合計	11回			15479人

(5) 刊行物の記録

① 山梨県立文学館館報 (A 4版8頁) 寄稿文及び資料翻刻一覧

105号 2018(平成30)年6月10日発行

【寄稿】 「赤い鳥」の時代 牛山 恵 (都留文科大学名誉教授)

【資料翻刻】 津島美知子 早川徳治宛書簡

106号 2018(平成30)年9月10日発行

【寄稿】 心平さんがいつも隣に 和合亮一 (詩人)

【資料翻刻】 太田黒克彦 竹村坦宛書簡

107号 2019(平成31)年3月10日発行

【寄稿】 「心づくし」と「親切」 中島京子 (小説家)

② 企画展「歿後30年 草野心平展」図録 寄稿一覧

草野さんのほほ笑み

中心のない宇宙の一点で

草野心平、親身になる力

この二つの「方々にゐる(ある)」ものをめぐって

草野心平のありがたさ

栗津 則雄

暁方ミセイ

蜂 飼 耳

大橋 毅彦

阿毛 久芳

③ 資料と研究 第24輯 平成31年3月31日発行 A 5版119頁

平成30年度企画展・特設展をめぐって

企画展「歿後30年 草野心平展 ケルルン クックの詩人、富士をうたう。」

講演会 草野心平、詩の理想を求めて

蜂 飼 耳

特設展「生誕120年 井伏鱒二展 旅好き 釣り好き 温泉好き」

講演会 井伏鱒二の笑いと悲しみ

井伏鱒二書簡 翻刻 一熊王徳平・岩月くま・小尾十三ほか一

町田 康

中野 和子

佐佐木信綱・和歌革新への道—長歌改良をめぐって—

飯田蛇笏 高室呉龍宛書簡 翻刻 1930(昭和5)年11月~1931(昭和6)年12月

佐佐木茂策日記「且楽軒誌」壹・弐 翻刻

中村星湖作成スクラップブック⑤その七

三枝 昂之

高室 有子

保坂 雅子

飯沼典子・小林幸代・中島桂子

(6) 閲覧室の運営

① 閲覧室の設置

山梨県立文学館設置及び管理条例と施行規則に基づき、県民・文学館来館者への資料・情報の提供及び調査・研究に対する助言を主な事業として、閲覧室の運営を行っている。

② 閲覧室の利用

ア 利用時間

平日 午前9時～午後7時

土・日・祝日 午前9時～午後6時

※休館日は閉室

イ 利用手続

書庫内の資料を利用する場合は、「閲覧カード発行申込書」に必要事項を記入し、「閲覧カード」の交付を受ける。閲覧を希望する資料名を「文学資料等閲覧承認申請書」に記入し、受付に申し込む。

ウ 利用対象

文学資料などの調査・研究、読書を目的とした利用とする。

③ 閲覧室の業務

ア 所蔵資料の閲覧・情報提供

閲覧室では文学作品・文学研究書を中心とした図書、逐次刊行物、県内外文芸誌、新聞などを収集し、利用に供している（一部禁閲覧資料あり）。

また、画像情報システムにより、特殊資料の芥川龍之介資料、樋口一葉の「たけくらべ」再掲本原稿（複製）、中村星湖「少年行」原稿、山崎方代草稿など、実物の閲覧が困難な資料を、画像で閲覧に供している。

イ 文献検索システムによる書誌情報の提供

所蔵資料（図書、逐次刊行物、特殊資料、マイクロ資料、視聴資料）の書誌情報は、文献検索システムにより、閲覧室内のコンピュータ端末及び当館ホームページから検索できるようになっている。

図書データは通常の書誌情報に加え、内容細目もデータ化し、全集・シリーズに収録されている個々の作品名、作者名からの検索も可能である。

逐次刊行物については、一部のものは所載論文名、作品名、執筆者名からの検索もできる。

ウ 調査・相談業務（レファレンス）

閲覧室に寄せられた調査・相談・照会などの依頼に対しては、文献に基づき、司書、学芸員などが対応している。質問は、電話、文書、FAX、電子メールでも受け付けている。

エ 複写サービス

著作権法に基づき、一部の禁複写資料を除き、所蔵資料の複写サービスを行っている。（有料）

オ 朗読テープ・CDの利用

朗読テープ・CDは文学関係のものを中心に所蔵し、コーナーを設けて利用に供している。

カ 個人研究室・共同研究室の利用

閲覧室内には個人研究室2室、共同研究室2室が併設されており、個人及びグループでの研究・研修などの利用に供している。（有料）

キ ビデオブースの利用

文学館の紹介及び文学資料の情報を多角的に提供するため、閲覧室にビデオブースを併設し、文学関連の映像資料を提供している。

ク 資料紹介

所蔵する資料は、ほとんどが閉架であり、直接来館者の目にふれることは少ない。そこで収蔵されている図書・雑誌の紹介を目的として、テーマを決めて閲覧室内で「資料紹介」を行っている。

ケ 書庫見学

職員が書庫内を案内し、収蔵資料、保管状況などを解説している（年2回開催）。

閲覧室事業実施状況

◆「閲覧室資料紹介」

回	タイトル	展示期間
133	井伏鱒二を読む	平成30年4月28日～6月17日
134	みんなで読もう日本の名作	7月14日～8月26日
135	草野心平の世界	9月21日～11月25日
136	映像になった文学作品 平成をふり返って	平成31年2月8日～4月7日

◆「文学者の誕生日にちなんだ資料紹介」

タイトル	展示期間
飯田 蛇笏 (4/26生)	平成30年4月20日～5月10日
太宰 治 (6/19生)	6月8日～6月28日
辻 邦生 (9/24生)	9月7日～9月27日
山崎 方代 (11/1生)	10月26日～11月15日
与謝野晶子 (12/7生)	11月30日～12月20日
中村 星湖 (2/11生)	平成31年2月1日～2月21日

◆ 書庫見学

実施日	参加者
平成30年6月9日	44名
平成30年11月20日・県民の日	50名



資料紹介「映像になった文学作品 平成をふり返って」



書庫見学（平成30年6月9日）